

◎3月 野木京子

背泳ぎで見た空の青さに
溺れてしまいそうなプールの時間 まちりこ（埼玉県）

*背泳ぎで移動する横軸と、空と水面下という縦軸が交差する広がり。永遠の世界に溺れてしまいそうな一瞬を描いた。

真っ暗な天井に向かい
しりとりを
子らと続ける帰省した夜 多田ぐりほ（神奈川県）

*親子でしりとりをする幸福な時間。それも実家という守られた場所で。しかし、あたりは真っ暗で、安心と不安の感情が入り混じっているようだ。

となりで幸せが眠っている
くうくうと寝息をたてて tae（福島県）

*読んで、心が温かくなる。寝息をたてているのは家族か恋人かペットか。幸せなのは自分自身だけど、「となりで幸せが眠っている」と擬人化して巧みに描いた。

怒りとも祈りとも 春 戦争あり 鈴木 勝也（京都府）

*心躍るはずの明るい「春」に、連日の辛いニュース。一行のみの短さだが心情がまっすぐ伝わる。「怒り」と「祈り」は頭韻を踏んでいる。「春」と「戦争」の間はわずか半角のスペースなのに、深い亀裂を感じた。

湯船では人間やめて液体に 夜（東京都）

*お風呂に入っているときのとろりとした感覚を巧みに表現。「人間やめて液体に」が秀逸。今日一日の疲れも、悩みも、心のなかの毒も、体から流れ出てしまうのだろう。

人はこれほど暖かくないと
火鉢を前に祖母がつぶやく 小林紅石（埼玉県）

*しんみりと、切ない気持ちになる。祖母の人生は辛いことの連続だったかもしれない。祖母の心と、その言葉を聞いている孫の心とが、二重に表現されているようだ。

水道の水、昨日よりやさしくて
春がそろそろ起き出してくる

猫谷圭希（広島県）

*水道の温度が少しぬるくなったことを「昨日よりやさしくて」と表現する心の柔らかさ。春も、冬眠からめざまめて動き出すらしい。

かたたたき券の「た」の数
かぞえる子

広田 土（大阪府）

*「た」を声に出して、指を折りながら数えるのだろう。かわいい子供の声が聞こえ、折り曲げられる小さな指の動きも見えるようだ。

ヒトの終わりは死ではなく
春なのではないかと思わせる風

風船（東京都）

*案外そうかもしれない。死ぬということは、その季節の風に、溶け込んでいくことかもしれないのだから。

たんぽぽ

下を向いた人に
精一杯の黄色い声援を
送っていた

桜咲（千葉県）

*たんぽぽの花は、けなげに一所懸命咲いている。地面の低いところから空に向かって咲いているのは、うつむいている人を励ますためだったのか。素敵な発想が楽しい。